

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H06117

研究課題名(和文) 天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展 知の体系の構造伝来の解明

研究課題名(英文) Advancing Japanese Bibliographics and Improving the Accessibility of Documents Held by Royal and Aristocratic Archives - Clarifying the Structure and Transmission of Knowledge Systems

研究代表者

田島 公(TAJIMA, Isao)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：80292796

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 157,000,000円

研究成果の概要(和文)：禁裏・公家文庫収蔵史料を史料編纂所HPから約66万件、陽明文庫HPから約8千件、Web公開した。東山御文庫本約5万件、書陵部所蔵「中井家文書」約4万件の画像を蒐集し、宮殿造営研究の成果を国際研究集会で発表した。禁裏本の全容を示す目録等を収載した『禁裏・公家文庫研究』や報告書を刊行し、日本目録学の体系と総体の提示の一端を示した。三條西家本除目書や『弁官補任』改訂版など新史料集を刊行し、古典学の公開講座を実施し、日本目録学を英語圏・ロシア語圏に発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

画像のWeb公開はコロナ禍による制限の中、古典学研究継続に大いに貢献した(25ヶ月の閲覧数約33万件)。国際研究集会で平安宮内裏・里内裏や近世御所に関して、文理融合型の画期的な研究を行った。東山御文庫本・御所本・高松宮家本の目録公開は禁裏本全容の復原に繋がり、近世の「知」の体系の一端として一条家の学問や文庫の解明をした。多数の新史料の翻刻の他、徳仁親王(当時)も報告された陽明文庫設立80周年記念研究集会、陽明文庫講座等の開催、図録・講演集の刊行で成果を社会に還元出来た。

研究成果の概要(英文)：1) Uploaded and made accessible historical documents held by royal and noble archives: approximately 660,000 to the homepage of the University of Tokyo Historiographical Institute and 8,000 to the homepage of Youmei Bunko. 2) Collected roughly 50,000 images of Higashiyama Obunko documents and 40,000 images of Imperial Household Agency Archives-held Nakai Lineage documents. Presented related research on palace architecture and construction at an international conference. 3) Shared a sample of systemic and holistic Japanese Premodern Catalog Studies via softcover research publications and a series of edited volumes (Research on Royal and Noble Archives) that provided full explanations of royal archives catalogs. 4) Published new editions of manuscripts such as the Jimokusho Sanjo; Nishike and Benkan Bunin, conducted public lectures about Premodern Studies, and communicated Japanese Premodern Catalog Studies globally via English and Russian translations.

研究分野：人文学、日本史、日本目録学、文庫史

キーワード：日本目録学 書陵部所蔵家分け本のWeb公開 Hi-CAT Plus 中井家文書 陽明文庫 九条家本 『日本古代人名辞典』の増補改訂 東山御文庫

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

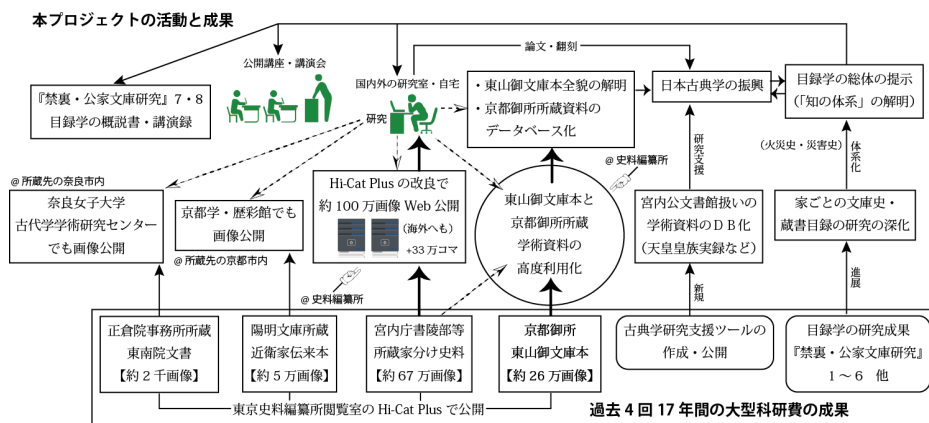
1. 研究開始当初の背景

研究代表者(田島)は、禁裏(天皇家)・公家文庫に関する2度の基盤研究(A)の後、2007~11年度学術創成研究費と2012~16年度基盤研究(S)の研究代表者を務め、申請時(2016年10月)、東山御文庫本のデジタル画像約26万コマ、宮内庁書陵部所蔵伏見宮家本など親王家(宮家)の蔵書群や九条家本・柳原家本等主要公家の家分けの蔵書群のデジタル画像約67万コマ、陽明文庫所蔵近衛家伝来本のデジタル画像約5万コマなど、総計約100万コマの目録情報(メタデータ)付きの古典籍のデジタル画像を史料編纂所閲覧室の情報端末Hi-CAT Plus(Hi-Catプラス、史料編纂所所蔵目録DB改良版)で公開を実現した。一方、書陵部HPのDB「書陵部所蔵資料目録・画像公開システム」で徐々にWeb公開が充実し、国文学研究資料館のHPでも書陵部所蔵日本文学関係史料約4,400点がWeb公開され、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫と東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センターのHPでは同所蔵漢籍の善本が「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」にてWeb公開される状況下で、史料編纂所閲覧室で公開中の書陵部等所蔵「家分け」史料群(九条家本・伏見宮家本他)のWeb公開を中心とした研究計画を思い立った。更に従来殆ど研究に利用されない宮内庁京都事務所管理下の京都御所・離宮関係の資料群や書陵部宮内公文書館管轄「特定歴史公文書」で、書陵部やその前身の図書寮・諸陵寮が編纂した研究工具や編纂物をDB化し、古典学研究的進展に役立てる等、過去4回17年間の科研費での天皇家・公家文庫を中心とした目録学的研究の集大成として日本目録学の進展による古典学の振興と前近代日本の「知の体系」を解明する為の大型研究を立ち上げることを決意した。

2. 研究の目的

上記のこれまでの研究の集大成として以下の4点の達成を目指す。(1)史料編纂所閲覧室で公開中の書陵部等収蔵の天皇家・公家文庫収蔵史料約100万画像を既存の公開システム(Hi-Cat Plus)を改修しWeb公開する。(2)京都御所東山御文庫所蔵史料及び京都御所・離宮所蔵の歴史・文学・建築・美術等学術資料を高度利用化する。(3)日本目録学の基盤を固め浸透させる為に家ごとの文庫史・蔵書目録・研究論文等の体系化とその総体の提示及び国際発信する。(4)日本古典学振興の為にDB・研究支援工具の作成・公開と研究者・市民向け公開講座等の継続を通じて古典学の研究環境を大きく改善し、研究者に希望を与える新しい史料や研究視角を提供し、前近代日本の「知の体系」の構造と伝来を通時的・共時的に解明する。

3. 研究の方法



(1) 閲覧室で公開中の天皇家・公家文庫収蔵史料約67万コマに壬生家本(函号F10)・御所本等約30万コマを新規蒐集し、天皇家・公家文庫収蔵史料約100万コマを、既存公開システム(Hi-CAT Plus)を改修してWeb公開する。

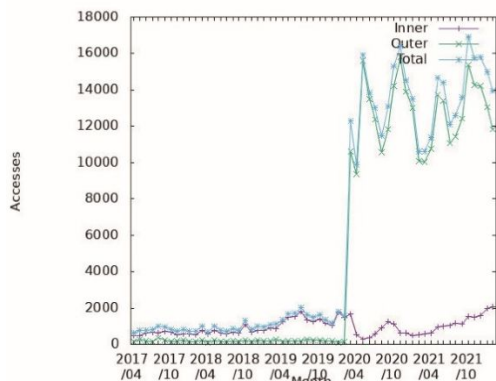
(2) 宮内庁侍従職所蔵『東山御文庫本目録』をDB化し近世の禁裏文庫蔵書目録や近代の東山御文庫関係蔵書目録との対照表の作成や同定作業、画像リンクの設定を行い、『皇室の至宝 東山御文庫』1~5(毎日新聞社1999・2000年)で撮影された4×5カラーフィルムでのデジタル化、同別置本のデジタル撮影等、東山御文庫本の高度利用化を促進する。宮内庁京都事務所管理下の御所、離宮の歴史・文学・建築・美術資料等の学術目的の研究資源化(DB化)・高度利用化に着手する。

(3) 天皇家・主要公家の個々の家分けの文庫や蔵書群の特徴、その創始や再興に深く関わった人物の読書史・収書活動、重要な蔵書目録、日記に見える蔵書や収書の記述、更には中・近世を中心とした公家社会の典籍貸借・書写等の情報を、「家分け」の文庫ごとに再度集積し、研究工具(目録・参考文献)などもDB化して体系化した上で、国内の研究者のみならず、英訳等をして海外の日本学研究者へも情報発信する。禁裏・公家文庫の成立・変遷に関して、戦乱や災害史・火災史も踏まえ、総合的な解明を行い、概説書を刊行する。

(4) 日本古典学振興の為に利用されるべき、『天皇皇族実録』(既にDB化されている近世分35冊を除く100冊)・『四親王家実録』19冊等のDB化、「延暦~仁和年間人名DB」をはじめとする古代人名DBなど研究支援工具の作成、平安・院政期の禁裏・公家文庫収蔵の儀式書・日記の

善本に基づく校訂本や未紹介史料の翻刻、東山御文庫等に伝来する鎌倉・南北朝期の洞院家旧蔵本の現存情報の集積を行い、日本古典学に関する研究成果の還元のために、「陽明文庫講座」など研究者・市民向け公開講座も継続する。

4. 研究成果



(1) 禁裏・公家文庫収蔵資料のデジタル画像の収集と Web 公開 東京大学史料編纂所閲覧室の所内専用の画像閲覧システムである Hi-CAT Plus を所外公開が可能な閲覧システムに改修し、それに対応したデータの変換とビューワの選択を行った結果、書陵部所蔵の家分け本(伏見宮家本・桂宮家本・九条家本・柳原家本・三条西家本・壬生家本・平田家本・白川家本・続群書類従〔原本：御歌所本〕)560,923 件を 2020 年 3 月より Web 公開ができた。また、「書陵部所蔵資料目録・画像公開システム」にもリンクが貼られ、閲覧件数は飛躍的に増大した(グラフ参照)。同年 12 月より山口県立山口図書館所蔵萩藩藩校明倫館旧蔵今井似閑本 32,372 件を Web 公開した(オープンデータ)。2022 年 2 月から、西尾市岩瀬文庫所蔵柳原家

本 70,730 件も Web 公開し、従来、書陵部と岩瀬文庫とに分蔵されてきた柳原家旧蔵本の大部分が Web 上で再構築され、閲覧が飛躍的に便利になった(なお京都府立京都学・歴彩館所蔵の柳原家本 2,401 件もデジタル化し蒐集済で、Web 公開の予定)。その結果、2022 年 3 月末現在の Web 公開数は累計 664,025 件となった。25 ヶ月のアクセス数は 326,743 件で、研究成果として最大の成果をあげることが出来た。一方、近衛家伝来宸翰・書状 7,709 件は公益財団法人陽明文庫 HP のデジタルアーカイブから Web 公開した。史料編纂所の Web 公開件数と併せると、累計 671,734 件を Web 公開できた。更に蒐集した書陵部図書寮文庫等所蔵禁裏・公家文庫所蔵資料 163,769 件には目録情報を付与し、Web 公開の準備を終えており、2022 年度に Web 公開を予定しているので、期間中に総計 835,503 件の Web 公開及び公開準備を完了したことになる。予期せぬコロナ禍の影響もあって、期間内の目標約 100 万件の Web 公開にはやや届かなかったものの、研究室や自宅での自由な閲覧が可能となったので、国内のみならず、世界に上記の大量の「家分け」の史料群が公開された波及効果は計り知れない。また、後述するように今後の Web 公開の可能性もある、閲覧室公開及び新規蒐集済の京都御所東山御文庫本(後述)に関しても目録情報を付与してあり、許可さえ得られれば、技術的には Web 公開が直ぐにでも可能である。従って、Web 公開数こそ目標の約 100 万件には届かなかったものの、2020 年 12 月より確認された新型コロナウイルス感染症の蔓延直後に、宮内庁書陵部図書寮文庫所蔵史料が Web 公開されたことは、多大な恩恵を与えたと高く評価されており、ほぼ目標の基盤は達成したと言える。なお、Web 公開していないものに関しては、史料編纂所閲覧室の所内専用の画像閲覧システムである Hi-CAT Plus により、京都御所東山御文庫所蔵禁裏本(262,883 件)・陽明文庫所蔵近衛家伝来史料(48,129 件)を継続して公開した。なお、本科研 HP「禁裏・公家文庫研究の窓」に Web 公開中の史料目録を掲載し、閲覧の為にマニュアルを、開発責任者の遠藤基郎氏が発表した(遠藤基郎「東京大学史料編纂所データベースの「使用上の注意」」『日本歴史』848、2018 年)。

(2) 京都御所東山御文庫本及び京都御所・離宮所蔵学術資料の高度利用

宮内庁侍従職管理の京都御所東山御文庫本・同別置本は新たに 46,071 画像に目録情報を付し、史料編纂所閲覧室での公開準備を完了した。更に別置本 5,581 件を蒐集した(小計 51,652 画像を蒐集)。その他、『皇室の至宝 東山御文庫御物』1~5(毎日新聞社 1999~2000 年)の為に撮影した 4×5 カラーフィルムからスキャンしたデジタル画像 2,193 件の蒐集できており、現在、閲覧室で公開中の東山御文庫本 262,883 件に加えると、東山御文庫本・同別置本は累計 316,728 件が蒐集済である。一方、京都御所の造営関係では、「中井家文書」のデジタル画像の蒐集と研究として、新たに書陵部所蔵「中井家文書」中の「寛政度・安政度の京都御所造営関係資料(簿冊類)」のデジタル画像 41,440 件を蒐集した。江戸幕府京都大工頭の中井家伝来資料は、京都御所・二条城など京都を中心とした諸寺社等建築関係の図面・古文書(帳簿)・地図などを含み、書陵部、京都大学附属図書館、京都府立京都学・歴彩館、大阪市立住まいのミュージアム等に分蔵され(大阪市所蔵資料は重要文化財に指定)、日本建築史上でも非常に貴重な資料とされている。最重要部分は内匠寮京都出張所を経て、書陵部に収蔵されているが、長らく未整理で、平井聖編『中井家文書の研究』1~10 掲載の図面類しか利用できなかった。同本の図面では詳細部分が見えにくかったが、蒐集したデジタル画像は拡大も可能で、同書未収録の図面約 200 点も確認された。更に従来、未撮影だった帳簿類(仕様書に相当)も、まずは安政度の御所造営関係の図面類を全てデジタル撮影した。それを利用し、藤井恵介・海野聡両氏主宰の「中井家文書」研究会を立ち上げ、安政度の簿冊類の研究を開始し、その成果の一部は、若手も含め日本を代表する建築史学の専門家を集め、①2020 年 10 月 25 日、② 2021 年 12 月 18 日に京都府立京都学・歴彩館で開催した 2 回の国際研究集会「御所(宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」で報告し、『報告集』を 2 冊刊行した(田島公企画・監修『国際研究集会「御所(宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」報告集』

2021年、報告集(2)2021年)。②は『京都新聞』で大きく取り上げられるなど、反響が大きかった。これまで全く原本が使えなかった書陵部所蔵中井家文書の全容が判明したことから、今後の近世御所造営研究の基盤が出来、文理融合型の画期的な成果と評された。

(3) 日本目録学の基盤固めと禁裏・公家の文庫ごとの研究の体系化と日本目録学の総体の提示

論文集(『禁裏・公家文庫研究』6・7・8輯 2017・20・22年)や中間報告書・最終報告書を刊行し、禁裏本である、東山御文庫本マイクログラムの目録(小倉慈司「東山御文庫本マイクログラム内容目録(稿)(3)」、『禁裏公家文庫研究』第8輯)、高松宮家にあった当時の高松宮本(有栖川宮本)の形態をうかがわせる目録(吉岡眞之・田島公・小倉慈司編「高松宮家蔵書目録一覧」、『禁裏・公家文庫研究』第7輯)、書陵部所蔵の御所本目録(小倉慈司(4)-参照)を公開し、禁裏文庫の復原や総体の解明の史料を提供した。また東北大学附属図書館狩野文庫所蔵「近衛家蔵書目録」(糸賀優理「東北大学附属図書館狩野文庫所蔵「近衛家蔵書目録」の紹介と翻刻」、『禁裏・公家文庫研究』第7輯)も従来知られていない史料で、「舟橋様御文庫書籍目録」(最終年度報告書掲載)などその他の公家の蔵書目録公開は、前近代の旧蔵形態の復原の手助けとなる。更に天皇家の文庫及び主要公家文庫ごとの主要文献の目録の作成・蔵書目録の翻刻を行い、近世の一条家の学問(松澤克行「一条兼輝の学問」「兼輝公記」に見える書籍年表稿」、『東京大学史料編纂所研究紀要』29)と文庫の変遷(林大樹「失われた近世一条家文庫について」近世公家アーカイブズ研究序説」、『禁裏・公家文庫研究』第7輯)に関して考察し、一条家の「知」の体系の一端を明らかにした。文庫毎の研究論文の文献目録に関しては、研究代表者田島が行った2017~21年度東京大学、2018・19年度大阪大学(集中講義)2021年度早稲田大学の大学院の講義で院生に配布し、京都府立京都学・歴史館、名古屋市蓬左文庫、西尾市岩瀬文庫、金鷄会館(県立長野高校同窓会館)等では研究者や市民向けに天皇家や主要公家の文庫に関する通時的な歴史や文庫の蔵書目録の性格に関する講演を行った(田島公「天皇家や公家はどのようにして古典籍や古文書を伝えたのか-近世の天皇家と公家の文庫と火災-」金鷄会館講座【続・古典を読む 歴史と文学】「いま明かされる古代45&中世・近世」第4回、2020年/同「中世の天皇家の文庫・宝蔵の歴史 院政期~戦国期までを中心に」『いま明かされる古代40&中世・戦国』第1回、2018年/同「文庫研究の世界~禁裏・公家文庫の目録学研究と蓬左文庫~」蓬左文庫典籍研究会主催「蓬左文庫典籍研究会 蓬左文庫の魅力」(招待講演)2018年/同「柳原家旧蔵本の形成・伝来とその特徴」西尾市岩瀬文庫企画展「公家柳原家の文庫」関連イベント岩瀬文庫講座、2018年/同「奈良平安時代の天皇家の文庫宝蔵の歴史 古代の知の体系の継承と文倉」『いま明かされる古代39&戦国』第1回、2018年)。

(4) 目録学の進展及び古典学振興のためのDB作成や研究・広報活動・国際発信

史料集の刊行・文庫所蔵目録の公開・作成

①『陽明文庫本 勘例』上(岩波書店2018年)②『新訂増補 弁官補任』1 大宝元年~文永11年(八木書店2020年)、③『明治大学図書館所蔵三條西家本 除目書』(八木書店2021年)を刊行した。①は学界待望の史料の全面翻刻で、下は2022年度刊行予定。②は底本を古写本で最善本の廣橋家本に変更するなど38年ぶりの大幅改訂。③所収の『除秘鈔』は逸文でしか知られていなかった後三條天皇撰『院御書』の除目儀部分であることを論証し、影印と翻刻の全面公開である。天皇御撰の儀式書は大変少なく、大きな発見と言える。発表間もないが、既に利用した研究論文が出ている。上記三冊は共に平安期の古典学進展を大きく促し、③では三條西実隆・公条宛の大量の書状類も公開しており、中世後期の公家文化や戦国大名との交流を示す発見である。

文庫所蔵目録では、中世禁裏文庫の目録を見出した(藤原重雄「仁和寺所蔵「絵目録」断簡について」、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』77・藤原重雄「〔第七櫃絵目録〕続考 絵櫃の貸借に関する史料」、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』79)。また、「書陵部所蔵御所本」(小倉慈司「宮内庁書陵部所蔵御書本目録(稿)」、『禁裏公家文庫研究』第6輯)・「高松宮家蔵書目録一覧」(吉岡眞之・田島公・小倉慈司編「高松宮家蔵書目録一覧」、『禁裏・公家文庫研究』第7輯)・「東山御文庫本マイクログラム目録」(小倉慈司「東山御文庫本マイクログラム内容目録(稿)(3)」、『禁裏公家文庫研究』第8輯)を公開した。中世後期から近世の天皇家を中心とする公家社会が保ってきた「知」の体系を体現する禁裏文庫本の全容を知る基礎資料である。またDB作成では、『天皇皇族実録』(宮内省蔵版)をもとにデータ入力を行い、『大日本史料』2編未刊行の後朱雀・後冷泉・後三條の各天皇実録を、出来るだけ善本に基づいて史料を入力し直した。

研究成果の市民への公開では、4-(3)で述べた他、特筆すべきは2018年7月15日に東京大学で近衛家当主の近衛忠輝・甯子両氏や研究者として皇太子徳仁親王(当時)をお迎えし、陽明文庫設立80周年記念特別研究集会を行い、報告集でもある記念図録を作成した(増補し吉川弘文館より刊行。田島公編『陽明文庫 近衛家伝来の至宝 設立80周年記念特別研究集会 記念図録』)。「陽明文庫講座」では『陽明文庫講座図録』1・2・3(2020・21・22年)を刊行した。金鷄会館での公開講座に関しては、2021年の8月には4日間の「市河文書」の連続講座、同年11月には6日間の「三條西家本除目書・同紙背文書」の連続講座を行い、特に後者に関しては、「金鷄会館連続講演会「三條西家本「除目書・同紙背文書」を読む」講演集」を刊行した(2022年)。

古典籍を用いた古代の地域史の解明として、川尻秋生編『地域の日本古代 東国と信越』（角川選書 2022年）も刊行した。

「日本目録学」の国際発信として、大量の画像が、デジタルアーカイブにおいて画像を公開し共有する為の国際的な枠組みで、海外の主要大学や博物館で導入されている「IIIF(トリプルアイワ)」対応のビューワ「Mirador(ミタドール)」によって公開され、世界に発信されたことに関連しては、Jason P. Webb「East Asian Bibliographic Traditions and Current Japanese Premodern Archives Studies (邦題「東アジアの目録学伝統と近年における日本の前近代文庫研究」)」（『禁裏・公家文庫研究』7 思文閣出版 2020年）及び、その和訳（『禁裏・公家文庫研究』8 思文閣出版 2022年）に紹介があると共に、同論文は、前近代の禁裏・公家文庫研究を英語圏内の発信した研究論文で、日本目録学を中国目録学や仏教目録学、更に近代の目録学の中に外国人研究者が位置づけた初めての研究である。欧米圏の前近代日本古典研究にとっては、大きな成果である。同書は、同氏の協力を得て、東京大学のUTokyo Biblio Plazaに英語版が掲載され、『禁裏・公家文庫研究』7・8所収の全論文に英文タイトルを付けることも出来た。また田島公「文庫論」（『岩波講座日本歴史』22 歴史学の現在 岩波書店 2016年）をパベル・スミルノフ氏がロシア語に訳した論文を『天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展 知の体系の構造伝来の解明 2017～19年度科学研究費補助金[基盤研究(S)] 研究成果報告書(中間報告)』に掲載し、ロシア語圏の研究者にも目録学や日本の文庫研究を広めることができた。「日本目録学」「文庫論」の国際発信の本格的な開始が出来た。

【 当初に予見していなかった新たな展開等によって得られた研究成果 】

(1) 2018年7月15日の陽明文庫設立80周年特別研究集会で当日配布資料として「図録」を作成したところ、大変好評であったため、2020・21・22年に刊行した「陽明文庫講座」1～3では陽明文庫所蔵近衛家伝来史料を用いた研究成果を募ったところ、学会未紹介の約30本も史料紹介や読み直しによる新知見を公開できた。近衛家の当主の学問や文庫の「知」の体系の奥深さの一端を示すことが出来た。

(2) 研究代表者の田島が放送大学大学院文化科学研究科では唯一の日本史科目である2021～26年度「放送大学大学院文化科学研究科 日本史史料を読む」(ラジオ)に出講を依頼され、本科研最大の成果であるHi-CAT Plusを利用した目録学・古代の史料論・文庫論を盛り込んだ内容の講義(授業)を4講担当し、テキストである近藤成一・杉森哲也編『放送大学大学院文化科学研究科 日本史史料を読む』放送大学大学院教材(ラジオ) 一般財団法人放送大学教育振興会(2021年)も執筆したことで、目録学の成果をより多くの人に広めることができた。

(3) 文献史学と建築史学の協業により、「中井家文書」研究会で、図面と帳簿を併用し、御所の築地の築造・移築・穴門などの築地の造営を巡る基礎研究ができた。初期の平安宮の殿舎の配置に関して、出土文字資料によって、宮城図諸本の研究に大きな影響を与える研究成果が出た(田島公企画・監修『国際研究集会「御所(宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地(2)」報告集』)。陽明文庫所蔵史料の紙背文書によって、「寝殿造建築部材」に新しい釈文を提供し(藤井恵介「陽明文庫等所蔵「寝殿造建築部材」」『国際研究集会「御所(宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」報告集』)、里内裏の裏築垣の初見史料が見出され、論争に終止符を打った(田島公「土御門烏丸内裏造営と「裏築垣」 陽明文庫本『除目次第』紙背文書から」『国際研究集会「御所(宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」報告集』)。

(4) 本科研等の支援により、公益財団法人陽明文庫のご理解により、試験公開ではあるものの、近衛家伝来史料のうち、「一般文書目録」所収の宸翰・書状7,709件を同文庫のHPから初めてWeb公開ができたことは、近世の宸翰・公家書状研究にとって大変画期的なことであった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計184件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田島公	4. 巻
2. 論文標題 「解説 除秘鈔」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学除目書刊行委員会〔田島公・末柄豊・牧野淳司・南保勝美〕編『明治大学図書館所蔵三条西家本除目書』（八木書店）	6. 最初と最後の頁 205-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末柄豊	4. 巻
2. 論文標題 「解説 紙背文書」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学除目書刊行委員会〔田島公・末柄豊・牧野淳司・南保勝美〕編『明治大学図書館所蔵三条西家本除目書』（八木書店）	6. 最初と最後の頁 315-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末柄豊	4. 巻 1
2. 論文標題 「三条西実隆・公条父子とその時代 戦国時代の貴族のくらし」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 田島公企画・監修『金鶏会館連続公開講座「三条西家本「除目書・同紙背文書」を読む 「明治大学図書館所蔵三条西家本除目書」影印本の刊行を記念して」講演集』（東京大学史料編纂所）	6. 最初と最後の頁 60-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末柄豊	4. 巻 1
2. 論文標題 「三条西家本『除目書』紙背文書を読む 京都と地方との交流」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 田島公企画・監修『金鶏会館連続公開講座「三条西家本「除目書・同紙背文書」を読む 「明治大学図書館所蔵三条西家本除目書」影印本の刊行を記念して」講演集』（東京大学史料編纂所）	6. 最初と最後の頁 74-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 8
2. 論文標題 東山御文庫本マイクロフィルム内容目録(稿)(3)」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 田島公編『禁裏・公家文庫研究』(思文閣出版)	6. 最初と最後の頁 25-172
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島公	4. 巻 1
2. 論文標題 「古代・中世の史料のまとめ 1 古代の典籍の伝来と文庫 自筆本『水左記』の伝来を例に 」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近藤成一・杉森哲也編『放送大学大学院文化科学研究科 日本史史料を読む』放送大学大学院教材(ラジオ)(一般財団法人 放送大学教育振興会)	6. 最初と最後の頁 159-172
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田島公	4. 巻 1
2. 論文標題 「土御門烏丸内裏造営と「裏築垣」 陽明文庫本『除目次第』紙背文書から 」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 田島公企画・監修『国際研究集会「御所(宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」報告集』(東京大学史料編纂所)	6. 最初と最後の頁 38-42
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井恵介	4. 巻 1
2. 論文標題 「陽明文庫等所蔵「寝殿造建築部材」」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 田島公企画・監修『国際研究集会「御所(宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」報告集』(東京大学史料編纂所)	6. 最初と最後の頁 12 19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡眞之・田島公・小倉慈司	4. 巻 7
2. 論文標題 「高松宮家蔵書目録一覧」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田島公編『禁裏・公家文庫研究』（思文閣出版）	6. 最初と最後の頁 242-346
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jason P. Webb	4. 巻 7
2. 論文標題 「East Asian Bibliographic Traditions and Japanese Premodern Archives Studies」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田島公編『禁裏・公家文庫研究』（思文閣出版）	6. 最初と最後の頁 349-373
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林大樹	4. 巻 7
2. 論文標題 「失われた近世一条家文庫について 近世公家アーカイブズ研究序説」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田島公編『禁裏・公家文庫研究』（思文閣出版）	6. 最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 糸賀優理	4. 巻 7
2. 論文標題 「東北大学附属図書館狩野文庫所蔵「近衛家蔵書目録」の紹介と翻刻」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田島公編『禁裏・公家文庫研究』（思文閣出版）	6. 最初と最後の頁 197-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤基郎	4. 巻 848
2. 論文標題 「東京大学史料編纂所データベースの「使用上の注意」」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本歴史』	6. 最初と最後の頁 46-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松澤克行	4. 巻 29
2. 論文標題 「一条兼輝の学問 「兼輝公記」に見える書籍年表稿」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『東京大学史料編纂所研究紀要』	6. 最初と最後の頁 54-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原重雄	4. 巻 77
2. 論文標題 「仁和寺所蔵「絵目録」断簡について」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』	6. 最初と最後の頁 4-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原重雄	4. 巻 79
2. 論文標題 「〔第七櫃絵目録〕続考 絵櫃の貸借に関する史料」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉慈司	4. 巻 6
2. 論文標題 「宮内庁書陵部所蔵御所本目録（稿）」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 田島公編『禁裏・公家文庫研究』（思文閣出版）	6. 最初と最後の頁 204-415
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計101件（うち招待講演 26件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 末柄豊
2. 発表標題 「三条西実隆・公条父子とその時代 - 戦国時代の貴族の暮らし - 」
3. 学会等名 2021年（令和3年）連続公開講座「三条西家本「除目書・同紙背文書」を読む - 「明治大学図書館所蔵三条西家本除目書」影印本の刊行を記念して - 」第5回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田島公
2. 発表標題 「天皇家や公家はどのようにして古典籍や古文書を伝えたのか - 近世の天皇家と公家の文庫と火災 - 」
3. 学会等名 公開講座【続・古典を読む 歴史と文学】「いま明かされる古代45 & 中世・近世」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小倉慈司
2. 発表標題 「天皇と改元 古代から現代まで 」
3. 学会等名 西尾市岩瀬文庫連続講座「史料から歴史の謎を読み解く2019」第2回
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田島公
2. 発表標題 「奈良・平安時代の天皇家の文庫・宝蔵の歴史 古代の知の体系の継承と文倉」
3. 学会等名 公開講座【続・古典を読む 歴史と文学】「いま明かされる古代39&戦国」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田島公
2. 発表標題 「柳原家旧蔵本の形成・伝来とその特徴」
3. 学会等名 西尾市岩瀬文庫企画展「公家柳原家の文庫」関連イベント岩瀬文庫講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田島公
2. 発表標題 「文庫研究の世界～禁裏・公家文庫の目録学研究と蓬左文庫～」
3. 学会等名 蓬左文庫典籍研究会 蓬左文庫の魅力（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田島公
2. 発表標題 「中世の天皇家の文庫・宝蔵の歴史 院政期から戦国期までを中心に」
3. 学会等名 公開講座【続・古典を読む 歴史と文学】「いま明かされる古代40&戦国」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤井恵介
2. 発表標題 「平安京と御所と貴族住宅」
3. 学会等名 禁裏・公家文化講座第2講
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jason Webb
2. 発表標題 「Aerating Antiquity: A Report on the Secretive Processes of Manuscript Care at the Kyoto Imperial Palace Archives」 「京都御所 東山御文庫の曝涼行事に関する一考察」
3. 学会等名 USC-Meiji University Research Exchange, 2018: Japan's Premodern History and Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計56件

1. 著者名 明治大学除目書刊行委員会〔田島公、末柄豊、牧野淳司、南保勝美〕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 (八木書店出版部)	5. 総ページ数 344
3. 書名 『明治大学図書館所蔵 三条西家本 除目書』	

1. 著者名 名和修・尾上陽介・田島公	4. 発行年 2022年
2. 出版社 (東京大学史料編纂所・公益財団法人陽明文庫)	5. 総ページ数 33
3. 書名 『陽明文庫講座図録3 - 陽明文庫資料からの新発見(2) - 』	

1. 著者名 田島公	4. 発行年 2021年
2. 出版社 (東京大学史料編纂所)	5. 総ページ数 92
3. 書名 『国際研究集会「御所(宮殿)・邸宅造営関係資料の地脈と新天地(2)」報告集』	

1. 著者名 田島公企画・監修	4. 発行年 2022年
2. 出版社 (東京大学史料編纂所)	5. 総ページ数 103
3. 書名 『金鶏会館連続公開講座「三条西家本「除目書・同紙背文書」を読む 「明治大学図書館所蔵三条西家本除目書」影印本の刊行を記念して」講演集』	

1. 著者名 田島公	4. 発行年 2022年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 436
3. 書名 『禁裏・公家文庫研究』第八輯	

1. 著者名 田島公編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 (東京大学史料編纂所)	5. 総ページ数 178
3. 書名 『天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展 知の体系の構造伝 来の解明』科学研究費補助金[基盤研究(S) 課題番号 17H06117]研究成果報告書(最終成果報告)	

1. 著者名 川尻秋生	4. 発行年 2022年
2. 出版社 (KADOKAWA)	5. 総ページ数 320
3. 書名 『シリーズ 地域の古代日本 東国と信越』	

1. 著者名 名和修・尾上陽介・田島公企画・監修	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学史料編纂所・公益財団法人陽明文庫	5. 総ページ数 33
3. 書名 『陽明文庫講座図録2 - 陽明文庫資料からの新発見 - 』	

1. 著者名 田島公企画・監修	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学史料編纂所	5. 総ページ数 86
3. 書名 『国際研究集会「御所（宮殿）・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」報告集』	

1. 著者名 田島公	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学史料編纂所	5. 総ページ数 284
3. 書名 天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展 知の体系の構造伝来の解明 2017(平成29)～2019(令和元)年度科学研究費補助金 [基盤研究 (S) 課題番号17H06117] 研究成果報告書 (中間報告)	

1. 著者名 田島公	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 388
3. 書名 『禁裏・公家文庫研究』第七輯	

1. 著者名 田島公企画・監修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学史料編纂所	5. 総ページ数 33
3. 書名 陽明文庫講座 図録1	

1. 著者名 飯倉晴武、田島公	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八木書店出版部	5. 総ページ数 384
3. 書名 『新訂増補弁官補任』第1	

1. 著者名 田島公	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 40
3. 書名 『陽明文庫 近衛家伝来の至宝』	

1. 著者名 東京大学史料編纂所 (田島公・藤原重雄) 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 266
3. 書名 『陽明文庫本 勸例』上巻	

1. 著者名 田島 公	4. 発行年 2017年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 430
3. 書名 『禁裏・公家文庫研究』第六輯	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>禁裏・公家文庫研究の窓 https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/kodai/kinri-kuge-index.html 東京大学史料編纂所 Hi-CAT Plus http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller 公益財団法人陽明文庫 http://ymbk.sakura.ne.jp/ 陽明文庫デジタルアーカイブ試験公開 http://ymbk.sakura.ne.jp/ymbkda/index.htm 公益財団法人陽明文庫ホームページ陽明文庫設立80周年記念特別研究集会報告特設ページ 「陽明文庫設立80周年記念特別研究集会 最新の研究成果の報告と陽明文庫の過去と未来」 http://ymbk.sakura.ne.jp/80th/80th.htm 「日本古典学の進展と大型・超大型科研費の必要性 禁裏・公家文庫史料の公開と日本目録学の創成」 http://www.jspgs.go.jp/j-grants/aid/29_essay/no108.html 英語版 (Jason Webb訳) 「日本古典学の進展と大型・超大型科研費の必要性」 https://www.jspgs.go.jp/english/e-grants/kakenhi_essay/grants11_108.html 【新聞掲載】 代表的なもの 2022年2月25日 京都新聞「中井家文書と京都御所造営」 / 2020年12月4日 京都新聞「電子史料で肉薄 御所の造営」 / 2020年4月24日 京都新聞「古典籍・古文書の大公開時代」 / 2020年2月29日 京都新聞「陽明文庫から宮廷文化迫る 電子化で広がる研究 左京で講座」 / 2019年7月31日 東京新聞「陛下、研究20年集大成 即位前に「牛車」論文寄稿」 / 2019年5月19日 京都新聞「『陽明文庫 近衛家伝来の至宝』 - デジタル活用の最新研究 -」 / 2019年4月15日 金融経済新聞「天皇家と文化の継承下 蓮華王院宝蔵と東山御文庫」 / 2019年3月13日 金融経済新聞「天皇家と文化の継承中 大嘗祭と菅笠」 / 2018年12月3日 毎日新聞「多様な国宝・重文 陽明文庫80周年 進むデジタル化 新知見続々」 / 2018年1月22日 京都新聞「史料の電子化 意義考察」 / 2017年9月26日 京都新聞「東大・田島教授ら『禁裏・公家文庫研究 第六輯』」</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	末柄 豊 (SUEGARA Yutaka) (70251478)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	遠藤 基郎 (ENDO Motoo) (40251475)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	小塩 慶 (OSHIO Kei) (80880765)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	
研究分担者	松澤 克行 (MATSUZAWA Yoshiyuki) (40282529)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	藤原 重雄 (FUJIWARA Shigeo) (40313192)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	藤井 恵介 (FUJII Keisuke) (50156816)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・名誉教授 (12601)	
研究分担者	金田 章裕 (KINDA Akihiro) (60093233)	京都大学・文学研究科・名誉教授 (14301)	
研究分担者	岸 泰子 (KISHI Yasuko) (60378817)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	吉川 真司 (YOSHIKAWA Shinji) (00212308)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鶴見 泰寿 (TSURUMI Yasutoshi) (70270775)	奈良県立橿原考古学研究所・企画学芸部資料課・係長 (84602)	
研究分担者	馬場 基 (BABA Hajime) (70332195)	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・室長 (84604)	
研究分担者	加藤 悠希 (KATO Yuki) (80790815)	九州大学・芸術工学研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	小倉 慈司 (OGURA Shigeji) (20581101)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	山口 英男 (YAMAGUCHI Hideo) (40182456)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	鴨川 達夫 (KAMOGAWA Tatsuo) (60214566)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山口 和夫 (YAMAGUCHI Kazuo)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	渡邊 正男 (WATANABE Masao)		
研究協力者	金子 拓 (KANEKO Hiraku)		
研究協力者	林 晃弘 (HAYASHI Akihiro)		
研究協力者	黒須 友里江 (KUROSU Yurie)		
研究協力者	月本 雅幸 (TSUKIMOTO Masayuki)		
研究協力者	川尻 秋生 (KAWAJIRI Akio)		
研究協力者	鍛冶 宏介 (KAZI kosuke)		
研究協力者	伴瀬 明美 (BANSE Akemi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	菱田 哲郎 (HISHIDA Tetsuo)		
研究協力者	稲田 奈津子 (INADA Natsuko)		
研究協力者	遠藤 珠紀 (ENDO Tamaki)		
研究協力者	渡辺 晃宏 (WATANABE Akihiro)		
研究協力者	吉岡 眞之 (YOSHIOKA Masayuki)		
研究協力者	北 啓太 (KITA Keita)		
研究協力者	満田 さおり (MITSUDA Saori)		
研究協力者	飯田 剛彦 (IIDA Takehiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	原 秀三郎 (HARA Hidesaburo)		
研究協力者	神尾 愛子 (KAMIO Aiko)		
研究協力者	村瀬 貴則 (MURASE Takanori)		
研究協力者	名和 修 (NAWA Osamu)		
研究協力者	名和 知彦 (NAWA Tomohiko)		
研究協力者	ジェイソン ウェブ (Jason Webb)		
研究協力者	海野 聡 (UNNO Satoshi)		
研究協力者	横田 冬彦 (YOKOTA Fuyuhiko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	谷 直樹 (TANI Naoki)		
研究協力者	清水 重敦 (SHIMIZU Shigeatsu)		
研究協力者	登谷 伸宏 (TOYA Nobuhiro)		
研究協力者	志村 佳名子 (SHIMURA Kanako)		
連携研究者	渡辺 泰明 (WATANABE Yasuak) (60191813)	東京大学・文学部・教授 (12601)	
連携研究者	館野 和己 (TATENO Kazumi) (70171725)	奈良女子大学・古代学学術研究センター・特任教授 (14602)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 第2回「御所（宮殿）・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 「御所（宮殿）・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」	開催年 2020年～2020年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------